

チャレンジの 指針

成功は失敗を越えた先にある。
だからこそ恐れるな。
夢に向かって頑張る姿は、
いつの時代も美しい。

「あの時は、誰もが心のどこかで『何かしなきゃ』という気持ちを持っていったと思います」。一昨年の東日本大震災、笠原徹さんは鯖江市の災害派遣ボランティアとして石巻市へ向かう。これをきっかけに、わずか3か月後には被災地を支援するNPO「だんね〜座」の代表となっていた。「それまでは、ボランティア活動にまったく興味なし。考えるのは自分のことだけ(笑)」。

この活動に参加した時から持ち続けている思いは、『自分ができるとは何でもやる』。だから代表も引き受けた。しかし、約40名のメンバーそれぞれが代表のようなもの。話す。「年齢も考えも異なりますが、皆が得意分野を持っていて、グループとしてはすごい力を持っていると思います」。

また、笠原さんは昨年8月に「ふくい若者チャレンジクラブ」の事業である「山形交流ミッション」にも参加。さまざまな交流を通じ、若者の活動が盛んな山形県の同世代の人たちが、地域を盛り上げていく姿を目の当たりにする。メンバーに根付く「まちのこと＝自分のこと」という考え方など、今後の参考となる部分は多かった。

今、笠原さんが実感しているのは「一歩踏み込まないと始まらない」ということ。「だんね〜座」や「若者チャレンジクラブ」も小さなきっかけを行動に移したから。「自分がそうだったように、少しでも気持ちが動いたら、踏み出してください。何かが変わると思っています」。



福島県から小中学生を福井に招くサマーキャンプ。「楽しい時間をひとつでも作れたら」という思いで始まった



「山形交流ミッション」では意見交流会や共同イベントのほか「花笠パレード」にも参加し、交流を深めた

東日本大震災福幸支援チーム
だんね〜座 代表

かさ はら とおる
笠原 徹

敦賀市出身。啓新高校卒業。現在は鯖江市に在住し、眼鏡などに特殊印刷を行う「有限会社 ファイン」で営業職に携わる。「だんね〜座」では、主に陸前高田市の被災写真を洗浄する「洗浄会」を福井県内で約50回開催し、今後も継続予定。過去2回好評だった、福島の子どもたちを受け入れるサマーキャンプも計画中だ。「手伝っていただけるスタッフを募集中です!」連絡先/090-4320-7838(笠原)

“気持ちが少しでも動いたら行動。自分ができるとは何でもやる”



チャレンジするって
素晴らしい!

ホームページ・facebookページ
「ふくい若者チャレンジクラブ」から
イベント情報などを発信中!

仲間をみつけて新しいことにチャレンジ!

「ふくい若者チャレンジクラブ」メンバー募集中

あなたも「ふくい若者チャレンジクラブ」に登録して、メンバーと新しいことを始めてみませんか。子どもたちの自然体験や、街なかでの音楽ライブやアートイベントの開催など、いろんな分野で活動する若者やこれから新しく何かを始めたいと思っている若者の活動を応援します!

詳しくはこちら ▶ ふくい若者チャレンジ 検索

事務局 福井県総務部男女参画・県民活動課 若者チャレンジ支援室 TEL:0776-20-0237
youthchallenge@pref.fukui.lg.jp FBページ「ふくい若者チャレンジクラブ」